

第3期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人和歌山大学

1 全体評価

和歌山大学は、学術文化の中心として広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を研究、教授し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とし、社会に寄与する有為な人材を育成することを目指している。第3期中期目標期間においては、高野・熊野世界文化遺産等豊かな歴史と環境に育まれた和歌山県唯一の国立総合大学として、学術文化の中心としての使命と役割を担い、地域と融合し、地域の発展に寄与する学術研究を推進し、地域創生を牽引する人材を育成すること等を基本的な目標としている。

中期目標期間の業務実績の状況及び主な特記事項については以下のとおりである。

	顕著な成果	上回る成果	達成	おおむね達成	不十分	重大な改善
教育研究						
教育			○			
研究			○			
社会連携				○		
その他			○			
業務運営			○			
財務内容			○			
自己点検評価			○			
その他業務			○			

（教育研究等の質の向上）

教養教育に地域の風土や歴史、文化等を学ぶ「わかやま学」科目群を設け、全学生に履修を義務付けるとともに、「わかやま未来学副専攻」プログラムや観光学部の「地域インターンシップ」等地域の実践的な課題に即した教育を実施している。また、地域産業の振興・創成につながる研究シーズを支援し、産官学の連携プロジェクトとなるように取り組んだ結果、6件の研究プロジェクトを形成しており、特にパワー車椅子に関する研究については、最先端の技術を駆使して開発された義手、義足、電動車いす等を用いて、障害のある人たちが日常生活に必要な動作で競う国際競技大会であるサイバスロンのパワー車いす部門において世界第4位の成績を収めている。

一方で、「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」の項目1事項について、「中期計画を十分に実施しているとはいえない」ことから、改善に向けた取組が求められる。

（業務運営・財務内容等）

観光学部が国内の大学として初の「tedQual」認証を取得している。当該認証の取得により、UNWTO（国連世界観光機関）、UNWTO Academy、UNWTO駐日事務所との連携が強化され、これらの機関が企画する国際会議に学生ボランティアの参加が可能となり、学生4名をボ

61 和歌山大学

ランティア派遣している。また、学生による起業・創業支援を目的として、全学生を対象に「香村賞ビジネスプランコンテスト」を開催するとともに、起業者の発掘、孵化、育成を目的としたアントレプレナー教育として「オープンイノベーションラボ」を開設する等、学生の積極的な挑戦を促す仕組みを構築している。

2 項目別評価

I. 教育研究等の質の向上の状況

<評価結果の概況>

	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善事項
(I) 教育に関する目標			○			
①教育内容及び教育の成果			○			
②教育の実施体制			○			
③学生への支援			○			
④入学者選抜			○			
(II) 研究に関する目標			○			
①研究水準及び研究の成果		○				
②研究実施体制等の整備			○			
(III) 社会連携及び地域に関する 目標				○		
(IV) その他の目標			○			
①グローバル化			○			

(I) 教育に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育に関する目標」に係る中期目標（中項目）4項目のうち、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果（教育）を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

1-1 教育内容及び教育の成果等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「教育内容及び教育の成果等に関する目標」に係る中期目標（小項目）5項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、4項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

61 和歌山大学

1-1-1 (小項目)

【判定】中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「地域の課題やニーズに沿った教育の実施」が特色ある点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域の課題やニーズに沿った教育の実施

平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」に採択された「わかやまの未来を切り拓く若者を育む“紀の国大学”の構築」の代表校として事業を推進しており、県内における課題・ニーズの的確な把握に努めるとともに、学生の勉学意識と社会的貢献意識の向上及び就職支援・創業支援を目的とした「香村賞ビジネスプランコンテスト」等を実施している。また、教養教育に地域の風土や歴史、文化などを学ぶ「わかやま」学科目群を設け、全学生に履修を義務付けている。さらに、「わかやま未来学副専攻」プログラムや観光学部の「地域インターンシップ」など、地域の実践的な課題に即した教育を実施している。(中期計画1-1-1-1)

○ 小中連携プログラムの設置

複数校種の教員免許状を保有する教員が求められている和歌山県の要望に応えるため、「小中連携プログラム」を設置しており、小学校教育と中学校教育の連携・接続を意識した教員の養成を目指した結果、卒業時に小学校教諭免許状と中学校教諭免許状を併せて取得した者の割合が、第2期中期目標期間末の42.6%から令和元年度は56.3%へと上昇している。(中期計画1-1-1-1)

○ グローバル・プログラムの設置

観光学部で国際的实践力を育成するため、英語で専門教育科目を提供するグローバル・プログラム（GP）を設けている。第3期中期目標期間におけるGPの登録者においては、TOEIC IPテストの平均スコアが116点向上（平成28年度比）している。(中期計画1-1-1-1)

1-1-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-1-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-1-4 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域と連携した教育の推進

平成28年度に「和歌山県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づいた人材の育成、県内の就職率向上、雇用創出等を目指して「わかやま未来学副専攻」を開講している。また、地域で活躍する実務家をゲストスピーカーに招いて和歌山の現状と課題解決について学ぶ「地域協働セミナー」、地元の企業と連携して商品開発を行うグループワークを中心とした授業を実施する「地域協働自主演習I」など、地域と連携した学生の主体性・能動性を育む教育を実施している。平成30年度には、参加大学、自治体、企業団体と連携し、「わかやま」を強く志向し、「わかやま」に関して学修した者に対して「わかやま未来創造人」の称号を授与する「紀の国大学認定制度」を開始し、平成30年度23名、令和元年度36名を認定している。(中期計画1-1-4-1)

1-1-5 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 学修管理システムLMSの積極的活用

平成28年度に教育コンテンツ制作室を設置するとともに、教育コンテンツの開発及び活用推進を行う「教育コンテンツ部会」を教務委員会の下に設置し、平成29年度にコンテンツ制作スタジオの運用管理を担当する特任技術職員を配置し、利用案内や撮影の予約受付を行うコンテンツ制作室のウェブサイトを立ち上げるなど、LMS等の教育環境の整備を進めている。LMSを活用した教育コンテンツの整備を推進する「教育コンテンツ活用研修会」の開催等、e-learningの活用に関するFD・SD研修会を毎年度開催した結果、第2期中期目標期間には80件であった利用コース(LMS登録単位)数が令和元年度には528件に増加している。(中期計画1-1-5-2)

61 和歌山大学

○ 全学的学修ポートフォリオの構築

達成目標を意識した学修に向けたきめ細かな支援を実施するため、教育サポートシステムと一体化した全学的学修ポートフォリオを構築している。学修ポートフォリオには、入試やメンタルヘルス、キャリア関係、ディプロマ・ポリシーに紐づけられた履修科目の単位取得状況等の情報を記録し、これらのデータを組み合わせて活用することで、卒業（修了）までを見据えたきめ細かな教育や学修支援を行っている。（中期計画1-1-5-1）

1-2教育の実施体制等に関する目標（中項目）

【評価結果】 中期目標を達成している

（理由） 「教育の実施体制等に関する目標」に係る中期目標（小項目）3項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-2-1（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

（特色ある点）

○ 新型コロナウイルス感染症下におけるFD活動

令和2年度以降、内部質保証体制の中心を担う「クロスカル教育機構教育改善推進専門部会」において、新型コロナウイルス感染症下における遠隔授業の授業改善について検討し提案を行った。また、全学FD研修をオンラインで実施し、学内における先進的な取組の紹介、初めて学習管理システム（LMS）の利用や教材の電子化を行った教員によるオンライン授業への取組を報告することで、ICTスキルのレベルに応じた遠隔授業の実施に役立てる取組を行うなど、新型コロナウイルス感染症下における教育改善の取組を組織的に進めている。（中期計画1-2-1-1）

1-2-2（小項目）

【判定】 中期目標を達成している

（理由） 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 新型コロナウイルス感染症下の教育

新型コロナウイルス感染症による影響下において、遠隔授業を円滑に実施するため、「遠隔授業実施WG」を立ち上げており、「和歌山大学遠隔授業実施ガイドライン」を策定して教員に公表している。また、WGが中心となり、MoodleやTeamsの使用方やコンテンツ作成方法等について周知を行うとともに、特任技術職員を配置して支援を行っている。さらに、感染症拡大以前より推進していたLMSの活用体制を発展させて、遠隔授業の実施に役立っている。

1-2-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 効果的なインターンシップ

インターンシップを効果的に行うため、ワークシートを活用する仕組みを開発している。学生には、目標シートに事前に業界や企業等についての分析や目的・目標を記入させ、企業にもインターンシップの目的・戦略や具体的なプロジェクト設計を記述してもらうことで、学生・企業双方のインターンシップに対する意識を高めている。また、インターンシップ実施前に学生・企業合同で「実習プログラム計画ワークショップ」を開催し、事前に作成したワークシートを基に実習計画を立てることで、インターンシップ内容の充実を図っている。なお、この取組は平成29年度に日本インターンシップ学会で秀逸なインターンシップ事例に送られる「榎本記念賞」に選定されている。(中期計画 1-2-3-1)

1-3学生への支援に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「学生への支援に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 5項目のうち、5項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-3-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

61 和歌山大学

1-3-2 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 独自の経済支援制度の導入

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により経済的に困窮している学生の支援を目的に「和歌山大学家計急変奨学支援特例措置」制度を設け、独自資金（寄附金500万円、自己収入530万円）により学生206名に一人当たり5万円を支給している。令和3年度には、下宿している学生の生活費の援助を目的として「和歌山大学家賃支援給付金」制度を設け、独自資金等（寄附金1,052万円、JASSO助成金100万円）を財源として、学生576名に一人当たり2万円を支給している。（中期計画1-3-2-1）

1-3-3 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-3-4 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-3-5 (小項目)

【判定】中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-4 入学者選抜に関する目標 (中項目)

【評価結果】中期目標を達成している

(理由) 「入学者選抜に関する目標」に係る中期目標 (小項目) 2項目のうち、2項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

1-4-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

1-4-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(Ⅱ) 研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究に関する目標」に係る中期目標(中項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を上回る成果が得られている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらの結果に学部・研究科等の現況分析結果(研究)を加算・減算して総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

2-1 研究水準及び研究の成果等に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を上回る成果が得られている

(理由) 「研究水準及び研究の成果等に関する目標」に係る中期目標(小項目)2項目のうち、1項目が「中期目標を達成し、優れた実績を上げている」、1項目が「中期目標を達成している」であり、これらを総合的に判断した。

2-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 国際的な観光学研究の推進

平成28年度に国際観光学研究センター(CTR)を設置し、世界トップクラスの研究者6名を招へいし、外国人研究者を含むCTR専任研究員6名を雇用している。これらの研究者と日本人教員で構成する10の研究ユニット及び延べ42の研究プロジェクトを立ち上げ、国際的な共同研究を推進している。その結果、科学研究費助成事業の観光学分野における新規採択累計数(過去5年間)が、平成27年度から平成29年度までの間、全国1位を獲得している。(中期計画2-1-1-1)

2-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成し、優れた実績を上げている

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。また、特記事項を判断要素とし、総合的に判断した結果、「地域産業の発展につながる研究推進」が優れた点として認められるなど「優れた実績」が認められる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 地域産業の発展につながる研究推進

地域産業の振興・創成につながる研究シーズを支援し、産官学の連携プロジェクトとなるように取り組んだ結果、第3期中期目標期間に6件の研究プロジェクトを形成している。また、地域産業の振興・創成、社会貢献が期待される研究を推進した結果、パワー車椅子に関する研究については、最先端の技術を駆使して開発された義手、義足、電動車いすなどを用いて、障害のある人たちが日常生活に必要な動作で競う国際競技大会であるサイバスのパワー車いす部門において世界第4位の成績を収めている。

(中期計画2-1-2-1)

2-2研究実施体制等に関する目標 (中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「研究実施体制等に関する目標」に係る中期目標 (小項目) が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2-2-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 独創的な研究の支援

卓越した研究グループや学部横断・文理融合型プロジェクトを支援し、研究拠点の形成等に繋げる学内競争的資金「独創的研究支援プロジェクト」の支援を通じて、和歌山大学のミッションに直結する研究を推進した結果、医療および食品応用を目指した糖鎖研究においては、「糖質応用研究コンソーシアム」を設立して企業との共同研究に繋げており、6件の特許を出願し、事業化を見据えた特許の実施許諾契約を締結している。

(中期計画2-2-1-1)

(Ⅲ) 社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標をおおむね達成している

(理由) 「社会との連携や社会貢献及び地域を志向した教育・研究に関する目標」に係る中期目標(小項目) 4項目のうち、3項目が「中期目標を達成している」、1項目が「中期目標を十分に達成しているとはいえない」であり、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

3-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を十分に達成しているとはいえない

(理由) 中期計画の判定において「中期計画を十分に実施しているとはいえない」がある。また、「教育学部全体での教員就職率の状況」に改善を要する点が指摘されたため、小項目を十分に達成しているとはいえない。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 地域課題に取り組むフィールドワーク型教育

主免教育実習を終えた3年次生が和歌山県内の小規模校において現地にホームステイしながら複式授業を中心とした2週間の教育実習を行う「へき地・複式教育実習」や、主免教育実習を経験していない1・2年次生がホームステイをしながら、和歌山県内の小規模校において運動会などの学校行事補助や授業補助、生徒指導補助などを行う「小規模校活性化支援事業」等、地域における実践的な課題に取り組むフィールドワーク型教育を実施している。「へき地・複式教育実習」に参加した学生の小学校教員採用試験(和歌山県)合格率は、第2期中期目標期間末の80.0%から、令和元年度の100%へ上昇している。(中期計画3-1-1-1)

(改善を要する点)

○ 教育学部全体での教員就職率の状況

教育学部全体での教員就職率を80%にするという目標について、平成28年度71%、平成29年度65%、平成30年度66%、令和元年度62%、令和2年度65%、令和3年度59%となっており、一定程度の取組は見られるものの、目標を達成していない。(中期計画3-1-1-3)

3-1-2 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

3-1-3 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(特色ある点)

○ 高齢者の課題解決に向けた研究開発

高齢者の課題解決に向けたシニアエクササイズ運動プログラムに関する研究では、運動による自治体の医療費縮減効果を明らかにしているほか、企業との共同研究「脈波波形からの各種健康指標推定」では、脈波信号のみによる血圧推定法を開発している。

(中期計画3-1-3-2)

○ 防災・減災に寄与する研究

防災・減災に寄与するプロジェクトを地域と連携して推進し、独自の防災ジオツアープログラムの開発や鉄道事業者と連携した沿岸部の列車からの津波避難訓練を体系化したほか、高精度レーザー測量データを活用した土砂災害の危険場所等を推定する技法の開発等、地域課題の解決に寄与している。(中期計画3-1-3-3)

○ 災害ボランティア拠点「むすぼら」の常設

和歌山大学災害科学・レジリエンス共創センターでは、「防災・減災・復興の担い手づくり」を目的に、平時から災害ボランティア拠点を常設し、地域とも連携しながら災害に強い人材の育成に取り組むこととしており、令和3年3月に災害ボランティアステーション「むすぼら」を設置している。「むすぼら」は、学生・教職員を問わず参加でき、平常時はスキルやテクニックを磨くための企画や教育活動の実施、災害発生時には災害ボランティアとしての活動や遠方からの後方支援などを実施しており、例えば、令和3年10月に発生した和歌山市北部大規模断水の際には、「むすぼら」に登録している学生を中心に全学から延べ79名の学生が参加し、応急給水所での給水ボランティア活動を実施している。(中期計画3-1-3-3)

3-1-4 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

(IV) その他の目標

(1) その他の目標

1. 評価結果及び判断理由

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「その他の目標」に係る中期目標(中項目)が1項目であり、当該中項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

2. 各中期目標の達成状況

4-1 グローバル化に関する目標(中項目)

【評価結果】 中期目標を達成している

(理由) 「グローバル化に関する目標」に係る中期目標(小項目)が1項目であり、当該小項目が「中期目標を達成している」であることから、これらを総合的に判断した。

4-1-1 (小項目)

【判定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の判定がすべて「中期計画を実施している」以上であり、かつ、中期計画の実施により、小項目を達成している。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ tedQual 認証の取得

観光学部及び観光学研究科において、観光学教育体系の確立、教育の質向上に取り組む、国連世界観光機関(UNWTO)の定める「教育・研究は地域や産業界、行政のニーズに対応しているか」、「教育の内容と教授法は適切か」等の100項目以上の基準をクリアし、日本の大学及び大学院として初めてtedQual認証を取得している。(中期計画4-1-1-3)

(2) 附属学校に関する目標

地域の教育課題へ対応するため、学部・大学院や和歌山県教育委員会等と連携して共同研究を行い、地域の学校の先進的教育モデルとしての役割・機能の強化を図っている。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 学部・大学院や地域と連携した研究

学部・大学院や和歌山県教育委員会、和歌山市教育委員会、大阪府和泉南地区の8市町と連携し、インクルーシブ教育、21世紀型能力、ESDの分野においての共同研究を行い、先導的教育モデルとしてカリキュラム改善、カリキュラムマネジメント開発を行い、その成果を地域の学校に提供している。

Ⅱ. 業務運営・財務内容等の状況

＜評価結果の概況＞	顕著な 成果	上回る 成果	達成	おおむね 達成	不十分	重大な 改善
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標
①組織運営の改善 ②教育研究組織の見直し ③事務等の効率化・合理化
【評定】 中期目標を達成している (理由) 中期計画の記載8事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

＜特記すべき点＞
(優れた点)
○ 観光学部及び観光学研究科（博士前期課程）のTedQual認証取得 観光学部が国内の大学として初の「tedQual」認証を取得している。当該認証の取得により、UNWTO（国連世界観光機関）、UNWTO Academy、UNWTO駐日事務所との連携が強化され、これらの機関が企画する国際会議に学生ボランティアの参加が可能となり、学生4名をボランティア派遣している。さらに、令和元年度には、大学院プログラム（観光学研究科博士前期課程）においても日本国内の大学院で初めて当該認証を取得している。
(2) 財務内容の改善に関する目標
①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善
【評定】 中期目標を達成している (理由) 中期計画の記載7事項全てが「中期計画を上回って実施している」又は「中期計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

<特記すべき点>

(優れた点)

○ 起業を促す取組

学生による起業・創業の支援を目的として、全学生を対象に「香村賞ビジネスプラン」コンテストを開催している。コンテストでは実現性や地域性を考慮した審査を実施しており、将来起業を志す学生にとっての「登竜門」となり、起業への意欲へとつながっている。また、起業者の発掘、孵化、育成等を目的としたアントレプレナー教育として、「オープンイノベーションラボ」を開設し、学生相互、学生と企業、学生と教員での議論、意見交換を活性化させ、起業家マインドの醸成に取り組むとともに、学生の起業活動を支援するため、産官学連携による「アントレプレナーコンソーシアム」の立ち上げに着手し、学生ベンチャーの設立を積極的に支援する体制の構築を開始している。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載2事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等 ②安全管理 ③法令遵守

【評定】 中期目標を達成している

(理由) 中期計画の記載5事項全てが「中期計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。